

# The Incidence and Associated Factors of Sudden Death in Patients on Hemodialysis: 10-Year Outcome of the Q-Cohort Study

冷牟田, 浩人

<https://hdl.handle.net/2324/4060053>

---

出版情報：九州大学, 2019, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：

権利関係：©2019 Japan Atherosclerosis Society. This article is distributed under the terms of the latest version of CC BY-NC-SA defined by the Creative Commons Attribution License.



氏 名：冷 牟 田 浩 人

論 文 名：

The Incidence and Associated Factors of Sudden Death in Patients on Hemodialysis: 10-Year Outcome of the Q-Cohort Study

(血液透析患者の突然死の発症率及び危険因子の検討：Q コホート研究 10 年予後)

区 分：甲

## 論 文 内 容 の 要 旨

目的：血液透析患者における突然死の発生率とその危険因子は一定の見解が得られていない。本研究は、血液透析を受けている日本人患者の突然死の発生率とその危険因子を明らかにすることを目的とした。

方法：18 歳以上の血液透析患者 3505 名の患者を 10 年間追跡し、突然死の発症率を検討した。また Cox 比例ハザードモデルを用いて、突然死の危険因子のハザード比 (HR) を計算した。

結果：10 年間で 1735 名が死亡し、そのうち 227 名 (13%) の死因が突然死であった。突然死の発症率は 1000 人年あたり 9.13 であった。多変数調整 Cox 比例ハザードモデルでは、男性 [HR 1.67; 95% 信頼区間 (CI) 1.20-2.33]、年齢 (HR 1.44; 95% CI 1.26-1.65 10 年増加毎)、糖尿病の罹患 (HR 2.45; 95% CI 1.82-3.29)、心血管疾患の既往 (HR 1.85; 95% CI, 1.38-2.46)、心胸郭比 (HR 1.21; 95% CI, 1.07-1.39 5% 上昇毎)、血清 C 反応性タンパク質濃度 (HR 1.11; 95% CI 1.03-1.20 1 mg/dL 上昇毎)、および血清リン濃度 (HR 1.15; 95% CI 1.03-1.30 1 mg/dL 上昇毎) が、突然死の独立した危険因子であった。性別または年齢による層別分析では、女性では血清補正カルシウム濃度低値、ビタミン D 受容体作動薬未使用、男性および 65 歳以上の群では短い透析時間 (5 時間未満) が突然死の危険因子であった。

結論：本研究は、日本人の血液透析患者における突然死の発生率とその危険因子を明らかにした。